



夜間高校なくさないで!

せいの都議が6校の募集停止撤回を求める

不登校を経験したり、若い時期に学ぶ機会がなかった生徒、外国にルーツを持つ生徒など、多様な学びのセーフティネットとしての役割を果たしている夜間定時制高校。通っている生徒からは、「近くにあり自転車で行ける」、「少人数だから安心」、「夜だから勉強できる」との声が寄せられており、都民の貴重な財産となっています。

ところが、東京都教育委員会は10月23日、都立夜間定時制高校6校（右図参照）の生徒募集を来年度から停止することを決定、7学級210人の募集減で、学年制の夜間定時制の募集は1260人から1050人に減少します。

これに先立ち、募集停止となった6校と、すでに今春募集停止となった立川高校を加えた7校の定時制存続を求める7団体が、生徒募集の継続を求めて2万5000人分を超える請願署名を提出しましたが、10月23日の教育委員会では審議すらされませんでした。

これを受け、せいの恵子都議は11月18日の文教委員会事務事業質疑で、請願を議題にもせず、署名が出されている事実も教育委員に知らせないまま行われた募集停止の決定は、正しい情報に基づく判断とは言えないと追及、今回の募集停止決定は撤回し、都民と徹底した議論を尽くすべきだと求めました。



生徒募集停止が決定された都立夜間定時制高校

生徒にとって最後の砦 募集停止は撤回を

赤羽自主夜間中学
一歩ずつの会代表 尾朝 徹さん

私が運営する自主夜間中学で学ぶ外国籍の生徒には日本語の壁が厚く、普通高校になかなか入れません。そうした人たちにとって都立夜間定時制高校はまさに最後の砦です。都教委の募集停止は、断じて認めることができません。



11/15



11/20



11/23

地元の滝野川では都営滝野川3丁目住宅の建て替え計画が本格化し、来年の5月ごろから対象になつた方の移転が始まります。現在、都営住宅には、ご高齢の一人暮らしの方が多く入居されています。しかし、移転先として示された都営住宅のうち、今の生活圏から近い場所では単身者用住宅が少ないとから、不安の声が上がっています。

誰もが安心して住み続けられる地域に先日、日本共産党として行った相談会でも、「こ近所さんと離れ離れになって一人で違う場所に行くのは不安」、「住み慣れた地域を離れたくない」などの声が聞かれました。住み慣れた場所で安心して暮らすことは最低限の保障です。「住まいは人権」私もみなさんの声をお聞きし、安心して暮らせる環境を整えられるよう、ともにがんばります。

せいの
恵子の
自転車に乗つて



来年もよろしくお願ひいたします